

斎藤 譲: 北海道の南端付近でクロミルを記録 Yuzuru SAITO: A record of *Codium divaricatum* HOLMES near the southernmost point of Hokkaido

1976年7月21日、北海道函館の西部に位置する知内町の涌元(北緯41度34分, 東経140度25分)沖3 km, 水深30-35 mにしかけられた底刺網で数個体の*Codium divaricatum* HOLMES クロミルが採集された。最大の個体(写真の右側のもの)で、長さ25 cm, どれも未熟で、胞嚢は大きさが160-330 μm , 長さ750-900 μm に達し、先端は丸く、その部分の細胞膜が半月形に肥厚しているのがめだつた。

同時に採れた多数の*Nitophyllum yezoensis* (YAMADA & TOKIDA) MIKAMI アツバスジギスは小石に着いたものもあったが、クロミルの方にその様なものは見られなかったので、漂流して北上したものではない、との確証を欠くとはいえ、いきいきしたあざやかな色彩や、数個体が同時に採れたこと、などから考えるならば、この水域で生育したもの、と見るのが妥当なのではなかろうか。

山田(1942)は、木下虎一郎氏が松前の西約20 kmにある日本海の小島で、潜水によって採集した海藻をしらべ、合計62種を報告したが、南方系と思われるフクリンアミジ、サナダグサ、アオワカメ、ヒラキントキ、キヌゲグサ、カザシグサ等は水深17-33 mから得られ、ユカリ、キヌダルス、ヤレウスバノリ、イソハギ等は浅所で見られず、打ち揚げられたものだけだったことに注目し、「南方系の種の深所での生育に注意すべき」と述べた。斎藤(1972)はその理由として、日本海沿岸を蛇行して北上する対馬海流の本邦寄りには右巻き渦流が誘発されるので、北半球の右巻き渦流は下降流を生じ、山田(1942)の述べた「日本海沿岸では南方系の海藻は深所に生育する」という結果を招いた、と考えた。

今回得られたクロミルは、かなりの南方系種であり、採集されたのが30 m以上と深いので、前回の考察に役だつ新しい資料を加えたもの、といえるのではなかろうか。

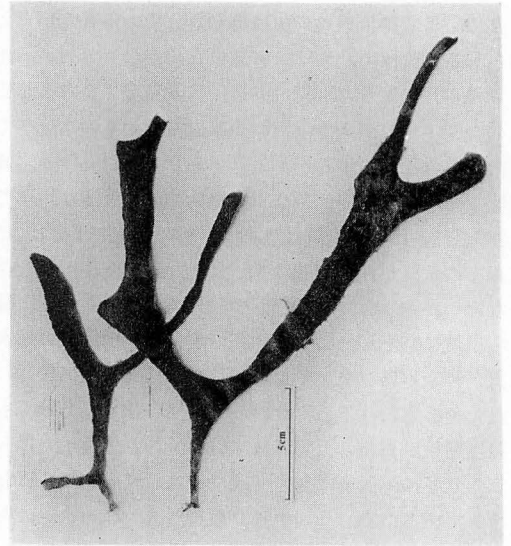


Fig. 1. *Codium divaricatum* HOLMES collected on July 21, 1976, from the depth of 30-35 m, off Wakimoto, Shiriuchi-Machi, near the southernmost point of Hokkaido.

引用文献

- 斎藤 譲 1972. 日本海沿岸の海藻と生育環境. 新潟県生物教育研究会誌 8: 1-8.
山田幸男 1942. 渡島国小島の海藻. 生態学研究 8: 99-100.

(041 函館市港町3-1-1 北海道大学水産学部)